

令和8年8月1日

第266号

関東の森林から



国民の森林・国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25
TEL.027-210-1158
<https://www.rinya.maff.go.jp/kanto/>



【写真】八海山 不動岳から地蔵岳を望む

(中越森林管理署)

- | | |
|-------------------------------|--------------------------------|
| ◎ 森林保護員（GSS）の活動について | 保全課・・・1 |
| ◎ 後世に伝えるべき治山 ～新潟県中越地震の復旧現場から～ | 治山課・・・3 |
| ◎ 森林管理署等からの便り | 東京神奈川森林管理署・・・5 |
| ◎ 小笠原に辿り着いた植物たち | 小笠原諸島森林生態系保全センター・・・7 |
| ◎ 森づくり最前線！ | 静岡森林管理署 南千頭森林事務所 森林官 平田 和嗣・・・9 |

特集
1

森林保護員（GSS）の活動について

関東森林管理局 保全課

背景写真：平標山（中越森林管理署）



森林保護員とは（Green Support Staff=グリーンサポートスタッフ）

国有林では、富士山など世界遺産登録地や利用者が多く訪れる山岳地域において、踏み荒らしによる植生の劣化やごみの不法投棄などを防ぐため、森林保護員（通称「GSS」）を配置しています。GSSは入山者へのマナー啓発を行うほか、標識や歩道の簡易な整備などを通じ、自然環境の保全と安全で快適な利用の促進に取り組んでいます。関東森林管理局では、以下の8署等に配置されており、それぞれの地域特性に応じた活動を行っています。

- ・会津森林管理署南会津支署（尾瀬沼周辺など）
- ・中越森林管理署（平標山^{たいらっぴょうやま}など）
- ・静岡森林管理署（富士山）
- ・山梨森林管理事務所（要害山^{ようがいさん}など）
- ・吾妻森林管理署（草津白根山周辺など）
- ・東京神奈川森林管理署（高尾山）
- ・天竜森林管理署（中ノ尾根山など）
- ・小笠原総合事務所（小笠原諸島・父島、母島）



活動内容の紹介

GSSの活動は、夏休みから秋のハイキングシーズンを中心に行われています。入山者の中には、山野草を無断で採取したり、貴重な植物が生育する場所や危険な場所でキャンプする人もいます。GSSは、このような行為が自然環境に与える影響や事故につながる危険性を説明し、ルールやマナーの遵守を呼びかけています。

また、残念ながら、一部の入山者によるごみの放置も問題となっています。匂いに誘われて野生動物がごみを食べてしまったり、さらには、人の食べ物の味を覚えたツキノワグマが、登山道やキャンプ地など人の集まる場所に出没し、大きな事故につながる可能性もあります。このような事態を未然に防ぐため、ごみ拾いなどの美化活動に取り組むこともGSSの重要な仕事の一つです。



手作りのしおりを配布



回収された放置ごみ



自然を安全に楽しんでいただくために

GSSは、登山道や歩道周辺を巡視し、倒れそうな枯木や歩道の損傷などがいないか点検しています。現場で対応できるものについては必要な措置を行い、対応が難しい場合は危険箇所の表示を行ったうえで、速やかに管轄の森林管理署へ連絡しています。また、植生の保護や入山者の安全確保のため、必要に応じて立入禁止区域を設定するなど、現場での柔軟な対応を心がけています。



歩道上への倒木（枯木）



歩道の危険箇所の表示



標識の整備



小笠原諸島での活動について

小笠原諸島では、国有林の多くが「世界自然遺産」や「森林生態系保護地域」となっており、世界的にも貴重な自然環境が残されています。

この特異で原生的な自然を後世へ引き継ぐため、GSSは、利用者へのマナー啓発（違法伐採や固有植物の盗採防止）、外来種除去装置の維持管理、利用カウンターによる入林状況の把握などに取り組んでおり、自然環境の保全と適正な利用の両立に貢献しています。

小石を利用した入林状況の把握 ▶▶▶



利用者に応じた異なる色の小石を
行先別の筒に入れてもらいカウントします！

森林生態系保護地域の利用について

森林生態系保護地域とは
林野庁が希少な動植物・生態系を保全するために指定した保護地域のことで、この保護地域では、決められたルート（指定ルート、公園歩道、遊歩道）のみ利用可能です。

指定ルートを利用するためには
観光の方は、許可を受けた**ガイド**などと同行していただきます。
島民の方は、講習を受講し、許可を受けていただくか、すでに許可を受けた方と同行していただきます。
何れの場合も、**同行者は10名以内**となります。

※ただし公園歩道（東京都管理）及び遊歩道（小笠原村管理）については、自由に利用いただけます。

アカガシラカラスバト

お問い合わせ
小笠原諸島森林生態系保全センター
小笠原総合事務所国有林課
tel:04998-2-3403
tel:04998-2-2103

ムニン/ボタン

指定ルートの利用にあたって

◆**ルート以外は立入禁止となっていますので、ルートから外れないでください。**また公園歩道や遊歩道の周囲も多くの保護地域に指定されているので、歩道から外れないようにしましょう。

◆**動物を捕まえたり植物を採ったり、傷つけないようにしましょう。**（法令違反になる場合があります）

◆**たき火や歩きタバコ、タバコのポイ捨てはやめましょう。**

◆**指定ルートは人が歩くことを前提とした公園歩道などとは違い最低限の管理しかしていません。また、利用は自己責任が原則です。**

◆**外来の動植物の拡散防止にご協力を！**
以下の種子除去装置を活用して、靴底の泥落とし、衣服に付着した種子の除去ができます。

壊れやすく世界にここだけしかない小笠原の自然は、利用する一人一人のマナーや意識によって良くも悪くもなります。皆様のご理解とご協力をお願いします。小笠原の自然をみんなで守りましょう！

森林生態系保護地域を利用する際の注意事項を記載したチラシ



スタッフこぼれ話

GSSのスタッフは、「季節の移り変わりを誰よりも早く感じられる」、「可憐な花々を間近で見ることが出来る」、「山を愛する人々との交流が楽しみ」など、それぞれのやりがいを感じながら業務に従事しているようです。これからもスタッフ一同、「自然を守る一員」としての自覚を持って、活動してまいります。

“GSS 活動日誌”

掲載中！

HP リンク ▶▶▶



イワショウブ



タテヤマリンドウ



アサギマダラ

特集 2

後世に伝えるべき治山 ～新潟県中越地震の復旧現場から～ 関東森林管理局 治山課

治山事業は、山地災害から国民の生命・財産を保全するとともに、水源の涵養、生活環境の保全・形成等を図るため、森林の維持・造成を通じ、荒廃地の復旧等を行う事業です。事業完了後は、周囲の森林が回復し、外観的には周辺と同化し、治山施設等が見えなくなる事業地も少なくありません。

このため、林野庁では、治山事業の実施が100年を経過したことを機に、緑がよみがえり国土の保全に寄与した60の治山事業地を「後世に伝えるべき治山～よみがえる緑～」として選定しています（平成25年（2011年）10月）。

関東森林管理局からは、13の治山事業地が選定されていますが、今回は、この中から、被災20年を経過した『新潟県中越地震』の復旧事業地の様子についてお伝えします。

“後世に伝えるべき
治山”

HP リンク ▶▶▶



新潟県中越地震からの復旧

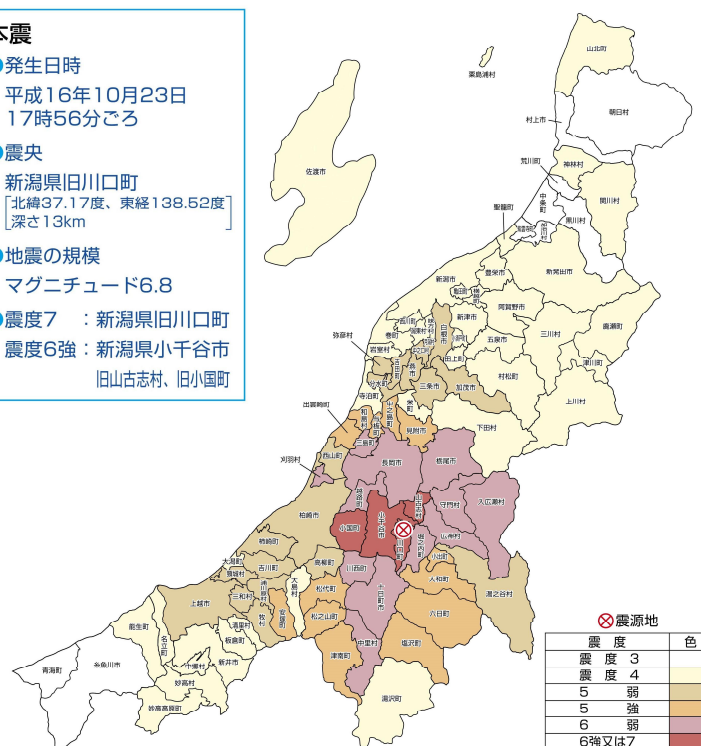
平成16年（2004年）10月23日、午後5時56分に発生した新潟県中越地震では、長岡市、小千谷市などの中山間地域で大規模な地すべりが多数発生し、集落、道路等に甚大な被害を与えました。

その復旧にあたっては、工事規模が著しく大きくなるとともに、高度な技術を要することから、新潟県の要請を受け、林野庁が直轄事業として実施することになりました。これにより、事業期間10年とした全体計画を策定、平成17年度から中越地区直轄地すべり防止事業に着手し、長岡市、小千谷市の11地区で総事業費約120億円をかけて復旧対策を実施しました。

本事業は平成26年度をもって予定していた地すべり防止施設の施工が完了し、平成27年度に施設の維持管理を新潟県に移管しています。

本震

- 発生日時
平成16年10月23日
17時56分ごろ
- 震央
新潟県旧川口町
[北緯37.17度、東経138.52度]
深さ13km
- 地震の規模
マグニチュード6.8
- 震度7：新潟県旧川口町
震度6強：新潟県小千谷市
旧山古志村、旧小国町



パンフレット「中越地区直轄地すべり防止事業の概要」より
(中越森林管理署作成)

現地見学会の開催

令和7年度は、新潟県中越地震の発生から20年余りが経過し、また直轄事業終了から10年となる節目の年にあたりました。これを機会に、関係機関の担当職員とともに、復旧事業地を視察し、当時の被災状況や関係機関との調整状況等を振り返りながら、今後の大規模災害発生時における対応に繋げることを目的として、令和7年10月20日に現地見学会を開催しました（中越森林管理署と上越森林管理署による共同開催）。



開会式（長岡市越路支所）

当日は秋晴れに恵まれるなか、新潟県地域振興局（長岡、上越、糸魚川）、長岡警察署、糸魚川警察署、長岡市消防本部、長岡市、上越市、妙高市、糸魚川市、十日町市の関係機関から23名、関東森林管理局、県内の4森林管理署等（下越、中越、上越、村上）から27名の計50名が参加しました。



土砂なだれの発生状況（貫地区）
（平成17年3月撮影）



復旧状況（同左地区）
（平成25年9月撮影）

長岡市越路支所での開会式の後、^{つなぎ}貫施工地（長岡市濁沢町）、^{ならのき}檜木施工地（長岡市山古志南平）、^{こも}木籠集落（長岡市山古志木籠：水没地）など復旧工事を実施した現場を巡りながら、当時工事を担当していた森林管理署の職員が当時の被災状況や現場条件を考慮した復旧計画・施工方法の検討経緯について説明を行いました。移動中のバスの車内においても、当時の苦労話やエピソードが語られ、参加者は工事の背景や復旧に携わった職員の思いに触れながら、事業への理解を一層深めていました。

当時の エピソード

“復旧工事に着手した当時、被災地へのアクセス道路が制限されていた。新潟県長岡地域振興局及び長岡警察署、国土交通省長岡国道事務所、湯沢砂防事務所、長岡市、中越森林管理署などの関係機関が早期復興に向けて一致協力し、通行規制に係る「連絡調整会議」を定期的開催した。”

“残土処理場の確保が困難な地域では、各工事現場内で残土を処理するよう工夫しながら施工していた。”

参加者の 感想

“復旧工事では関係機関が一丸となり、早急な復旧に尽力されていたことを知り、有事の際には組織の枠を超えた連絡調整が必要だと感じた（上越市職員）” など



署担当者による現地での事業説明

今後への備え

昨今の異常気象の影響により、大規模災害はいつどこで発生するか予測が難しい状況にありますが、いざ災害復旧に携わることになった際には、“初動対応”が極めて重要であると考えています。平時から会議や各種取り組みを通じて、有事の際に関係機関が組織の枠を超えて円滑に連絡調整を行えるよう、顔の見える関係を構築しておくことの重要性を改めて実感しました。また、今回の現地見学会のような取り組みを通じて、過去の災害で得られた教訓や経験を次の世代へ継承していくことも重要であると感じました。

地域発



森林管理署等からの便り

～森林管理署等における現場の取組をご紹介します～

酒匂川源流域の森林で現地検討会を開催しました！

■ 東京神奈川管理署（令和8年6月23日 in 山北町世附地区）

東京神奈川森林管理署では、令和2年3月に山北町、神奈川県・県西地域県政総合センター、王子木材緑化株式会社との4者による「^{よつぐ}世附地区森林整備推進協定」を締結し、協定者が連携、協力して地域林業の活性化に取り組んでいます。

現在の協定は、令和6年度から令和9年度までの2期目となっており、これまで森林共同施業団地の設定や路網連結による効率的な森林整備を行っています。

令和8年6月23日（火）、各々の森林整備に係る取組について情報交換するため、山北町世附地区の民有林・国有林において現地検討会を開催しました。

世附地区は、酒匂川^{さかわがわ}の源流域にあたりますが、当日は、協定4者に加え、下流域に位置する小田原市からも関係者の皆さんにご参加いただきました。

現地検討会では、協定に基づく森林共同施業団地の現況や令和元年10月の台風19号により大きな被害を受けた水ノ木幹線林道の復旧状況、国有林の造林地におけるシカ被害対策（防護柵等）、山北町の町有林の現況など、それぞれの森林を見て回りました。各現場では、担当者から現状や課題について説明を受け、意見交換を行いました。

参加者は、森林の現状を直接確認することで、民国・上下流域が一体となった森林管理の重要性を改めて実感しました。当署では、引き続き、関係機関と連携し、地域の森林整備と林業の活性化に取り組んでまいります。



山北町の町有林の現況を確認



世附地区森林共同施業団地の現況説明

・民有林 735ha、国有林 535ha 計 1,270ha



現地にモニターを持ち込み、UAV（ドローン）による空撮映像を映し出して情報共有



今月の“表紙” はっかいさん 八海山 不動岳から地蔵岳を望む (中越森林管理署)

八海山は、最高峰の入道岳（標高 1,778m）をはじめ、薬師岳、地蔵岳、不動岳など、いくつかの峻しい峰々からなる山岳群の総称です。新潟県・中越地方を代表する山の一つで、越後駒ヶ岳、中ノ岳とともに「越後三山」として知られ、古くから山岳信仰の霊山として崇められています。また、日本酒の銘柄「八海山」としても広く知られており、2025年3月からは、ロサンゼルス・ドジャースの“公式日本酒”に採用されています。

若手職員が多い当署では、OJT（On Job Training：職場内研修）に力を入れており、既定の研修項目だけではなく、日頃の業務では経験する機会が少ない特色ある取組をテーマに、事業を担当する職員が発案・企画し、毎回、勉強熱心な若手職員が参加しています。今回は、八海山の避難小屋やトイレなど、国有林野を敷地として利用している箇所の現況確認に行ってきました。

これから本格的な夏山シーズンを迎えますが、国有林が多くの方々に親しまれるよう、適切に管理するとともに、引き続き、次世代を担う若手職員の育成にも努めてまいります。



地蔵岳：NHK大河ドラマ「天地人」（2009）オープニングのロケ地！
薬師岳山頂にて（右奥に地蔵岳と千本檜小屋）



（合板工場での勉強会）



（収穫調査“極印打ちに挑戦”）



（RCM 工法による治山事業）

～令和8年度 OJT の様子～

GREEN×EXPO 2027 ～幸せを創る明日の風景～

2027年3月19日（金）から9月26日（日）まで、GREEN×EXPO 2027が神奈川県横浜市で開催されます。日本における最上位クラス（A1）の開催は1990年大阪花の万博以来、37年ぶりです。1,000万株の花と緑が世界中から集結して「幸せを創る明日の風景」を創り出し、様々な展示や体験を通じて、グリーン社会や自然との共生について考えるきっかけをもたらします。

詳細はこちら

▶▶ <https://expo2027yokohama.or.jp>

HP リンク▶▶

チケットサイトはこちら ▶▶ <https://ticket.expo2027yokohama.or.jp/>



メインガーデンイメージ（2026年3月現在）

画像提供：GREEN×EXPO 協会



©Expo 2027



小笠原に辿り着いた植物たち

～海洋島生態系の起源～

小笠原諸島森林生態系保全センター

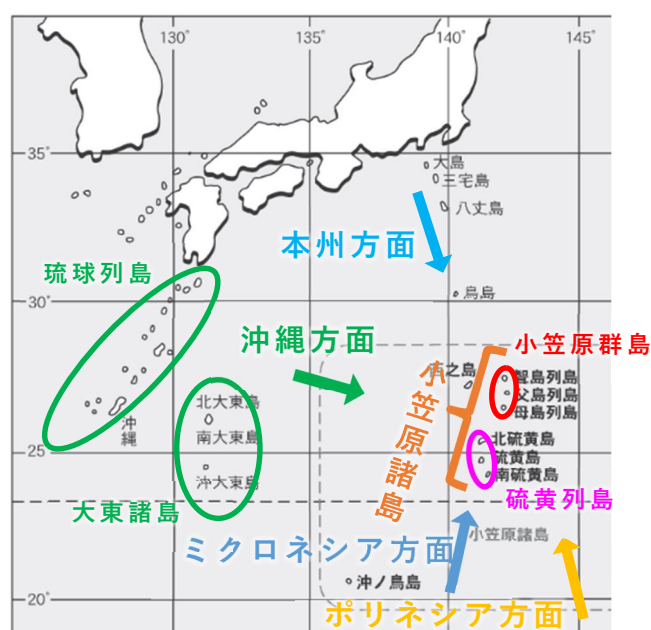
背景写真：マルバシマザクラ

小笠原諸島は、火山の噴火により島が誕生してから一度も大陸と陸続きになったことのない海洋島です。偶然辿り着いた数少ない祖先種に多様な進化が起こり、数多くの固有種が誕生した唯一の生態系を持った島々であり、その独自の生態系が評価され、平成23年には世界自然遺産へ登録されました。これらの固有種たちが辿った進化の道筋はとても興味深く、一方でその起源もまた複雑で示唆に富むものとなっています。

小笠原諸島の生物の起源は、「3つのW」に由来すると言われています。

- ① **W**ind（風）：種子や孢子が風に乗って運ばれてきた植物など
- ② **W**ave（波）：ヤシの実など種子が海流に乗って漂着した植物、棲みかである流木とともに漂着した生き物、海と陸の両方で生活する生き物など
- ③ **W**ing（翼）：自力で飛来した鳥や蝶、実が鳥に食べられて糞として排出されることによって島に運ばれてきた植物など

長い歴史の中で島に辿り着けた生物は、ごく限られており、そこから島の環境に順応し定着、繁殖できたものはさらにほんの一握りとなります。そのため、島や列島ごとに少なからず異なった生態系が形成されています。



小笠原諸島の位置関係

小笠原諸島の在来植物は、近縁種が分布する地域をもとにその起源が推定されています。オガサワラアザミやシマモクセイ、ムニンイヌツゲなどは本州方面の温帯域、ムニンヒメツバキやシマホルトノキ、シマイスノキなどは沖縄方面の亜熱帯域に、コハマジンチョウなどはミクロネシア方面、ムニンフトモモなどはポリネシア方面に由来するとされ、狭い島の中で共に生育する植物であってもその起源は多岐にわたっています。



オガサワラアザミ



ムニンヒメツバキ



コハマジンチョウ



ムニンフトモモ

また、類縁関係が解明されておらず、由来が不明なものも少なくありません。小笠原群島固有種のシマザクラとマルバシマザクラ、硫黄列島固有種のアツバシマザクラはアカネ科フタバムグラ属の木本植物ですが、この3種は近縁種が他に見つかっておらず、由来が判明していません。また、ワダンノキはキク科ワダンノキ属の木本植物で、小笠原群島に固有の1属1種であり、由来も不明ながら、母島列島にのみ生育する異彩を放つ存在です。



ワダンノキ

広域分布種でありながら、生育する島が限られている特異な事例として、ヒメタニワタリ（大東諸島と小笠原群島（母島））やキダチノジアオイ（琉球列島と硫黄列島）、ガクアジサイ（本州と硫黄列島）などが挙げられます。

ヒメタニワタリは湿った石灰岩地に依存するためやや特殊ですが、これらの植物は、生育可能な環境があるにもかかわらず、周辺の島には分布していない点でとても興味深い事例となっています。



ヒメタニワタリ



ヤロード

さらに興味深い事例として、小笠原群島固有種のヤロードと硫黄列島固有種のホソバヤロードが挙げられます。どちらもキョウチクトウ科ヤロード属ですが、ヤロードは琉球列島の宮古島以西に生育するシマソケイと近縁であり、硫黄列島や大東諸島を跨いだ飛び地的な類縁関係を持っています。

一方でホソバヤロードは前述2種と異なりミクロネシア方面と独自の類縁関係を持つといわれ、まるで立体交差するかのような関係性となっています。

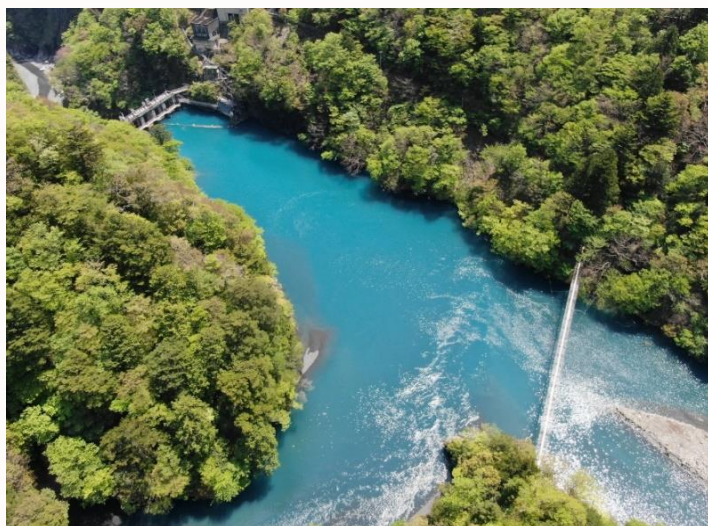
これらの謎多き小笠原の植物たちは、小笠原の数ある魅力の一つです！

連載
シリーズ

森づくり最前線！

静岡森林管理署 南千頭森林事務所 森林官 平田 和嗣

南千頭森林事務所は、静岡県榛原郡川根本町に千頭森林事務所との合同事務所として設置されており、大井川源流部に位置する千頭国有林（約 26,400ha）や大井川中流域の大代国有林（約 900ha、島田市）などを管轄しています。



寸又川と「夢の吊り橋」（高さ 8 m・長さ 90m）

一つ目は「飛竜橋自然観察教育林」です。大井川の支流である寸又川と大間川の合流部に位置し、「寸又峡」と呼ばれる急峻なV字渓谷を見ることができます。コバルトブルー色のダム湖に架かる「夢の吊り橋」は、徒歩で渡ることができる人気の観光地で、静岡県の“エンゼルパワースポット”（恋愛・結婚・子宝にまつわる噂のスポット）にも選定されています。

二つ目は、「千石平風致探勝林」です。蕎麦粒山や高塚山への日帰り登山で拠点となる「山犬段」は、稜線上にありながら平坦で眺望に優れ、赤石山脈の雄大な景観が広がっており、春にはヤマザクラやシロヤシオ、秋には紅葉狩りも楽しめます。

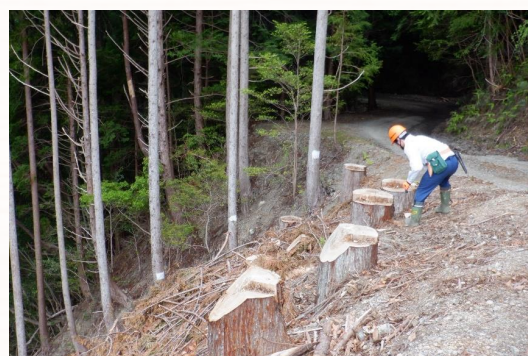
一方、大代国有林は、都市近郊に位置し、アクセスも良く、生育・形質に優れたヒノキが多いことから循環型施業の適地となっています。今年6月には、早生樹である「テーダマツ」の植栽に関する現地検討会を開催し、多くの方々にご参加いただきました。

今後もそれぞれの森林の特性に応じて、適切な維持管理と森林整備に取り組み、貴重な森林資源の保全と活用に努めてまいります。

千頭国有林には、南アルプスを代表する光岳（標高 2,959m）があり、その周辺は、「南アルプス南部光岳森林生態系保護地域」に設定されています。また、本州唯一の「原生自然環境保全地域」でもあり、奥大井県立自然公園やユネスコエコパークにも登録されるなど、荘厳な天然林が手つかずで残されています。さらには、千頭国有林には「日本美しい森お薦め国有林」に選定されたレクリエーションの森が2カ所あり、多くの人に親しまれています。

林野庁 HP「日本美しい森」

“お薦め国有林” ▶▶▶

現地検討会で植栽した“テーダマツ”
30年程度で木材として利用可能

立木販売箇所の跡地検査を行う筆者